

にわとり石（千種町）

千種〈ちくさ〉町と波賀〈はが〉町のさかいの波賀坂峠〈とうげ〉に、むかし観音〈かんのん〉さんと薬師〈やくし〉さんが、いっしょにお祭りしてあった。

東の方の斉木〈さいき〉の村の人は、自分たちの村にお堂を建てて、観音さんをつれて帰ろうとした。

西の方の岩野辺〈いわのべ〉村の人も、お堂を建ててつれて帰ろうとして、とうとう取り合いになってしまった。

そこで、両方の村の人たちが峠に集まって、いろいろ相談〈そうだん〉したそうじゃ。そして、

「あすの朝、にわとりが鳴いたのを合図〈あいず〉に、早う峠の観音さんのところへきた村へ、つれて帰ることにしよう。」

と、いうことになったんじゃ。

両方の村の人は、それぞれの村へ帰っていった。

ところが、岩野辺の村の人が峠をおりて、ふもとの荒尾〈あらお〉の下まで帰ってくると、大きな石の上で金のにわとりが大声で鳴いていた。さっそく、とって返して峠へたどりつき、観音さんをつれて帰ってきたそうじゃ。

岩野辺村の福海寺〈ふくかいじ〉の上の観音堂にまつてある観音さんがそれで、金のにわとりが鳴いた大石を、「にわとり石」と呼んでいいつたえてきた。

いっぽう、斉木村の人たちは、薬師さんをつれて帰り、それをまつた薬師堂が今につたわっている。

両方の村の人たちは、観音さんと薬師さんとともにたいせつに祭り、信心をしてきたということじゃ。

（春名雅さんの話）

